

緊急提言(案)

平成22年3月26日

成田空港緊急戦略プロジェクト会議

(提言の趣旨)

成田空港は、世界 93 都市と結ばれ、年間 3,000 万人以上の利用客、600 万人の乗継客、200 万トンの貨物を扱う我が国最大の国際空港であるとともに、欧・米・アジアの三極にバランス良く航空ネットワークを持つ世界有数のゲートウェイ空港として確固たる地位を築いている。

成田空港は現在でも着実に進化し続けており、この 3 月 28 日には発着枠が 22 万回に拡大し、7 月 17 日には成田スカイアクセスの開通により、都心まで 36 分とアクセスも大きく改善される。成田空港の持つ航空ネットワークを更に拡充していくため、既に発着回数 30 万回の実現に向けても取り組んでいる。

一方、アジア諸国では、その経済的発展を背景に、大規模国際空港の整備が相次ぎ、空港間競争が激化している。これに対応するため、我が国でも、成田の 22 万回化に加え、10 月には羽田空港の発着容量の拡大が実現し、羽田の昼間には中国や韓国等といった近距離アジア路線が、夜間には欧米を含めた主要国への国際定期便が就航することになっている。

このような状況のもと、成田空港の競争力強化・旅客利便性の向上や成田空港を活かした千葉県経済活性化に必要な方策の検討・提言を行うことを目的として、県内経済界をはじめ、成田空港に関連の深い自治体関係者や交通事業者、観光関連事業者からなる「成田空港緊急戦略プロジェクト会議」を設置し、議論を積み重ねてきたところである。

会議では、成田空港の魅力・実力の PR や内際乗り継ぎ利便性向上の必要性、我が国の表玄関として「おもてなし」機能やインバウンド観光と県内観光活性化の重要性等成田空港の利活用策等の様々な提案がなされたところである。今後は、6 月に予定している議論の中間とりまとめに向け、中長期的な視点から、我が国経済の戦略拠点である成田空港を活かした経済活性化策などについて、更に議論を深めていく必要がある。

この提言は、中間とりまとめに先立ち、今まで議論された提案の趣旨を一旦整理し、主として関係者が一丸となって成田空港の魅力を向上させるという観点から、緊急的に取り組むべき施策としてとりまとめたものであり、早急な具体化を期待するものである。

提言1

成田空港の22万回の増枠や成田スカイアクセスの開通を契機とし、空港の魅力を官民一体となって全国的にPRすべきである。

- 早急に官民の関係者が一体となった広報戦略組織を立ち上げ、各関係者が連携した取り組みを行うべきである。
- その際には、森田千葉県知事のマスメディアへの発信力を活かし、テレビやラジオ出演等できるだけ多くの機会をとらえて空港の魅力をPRすることを検討すべきである。
- また、企業に対して空港の利用促進を促すため積極的にPRを行い、ビジネス需要を取り込むことも重要である。
- 国際的な商談会を活用する等、積極的なエアポートセールスの展開といった対国際的なPRも検討すべきである。

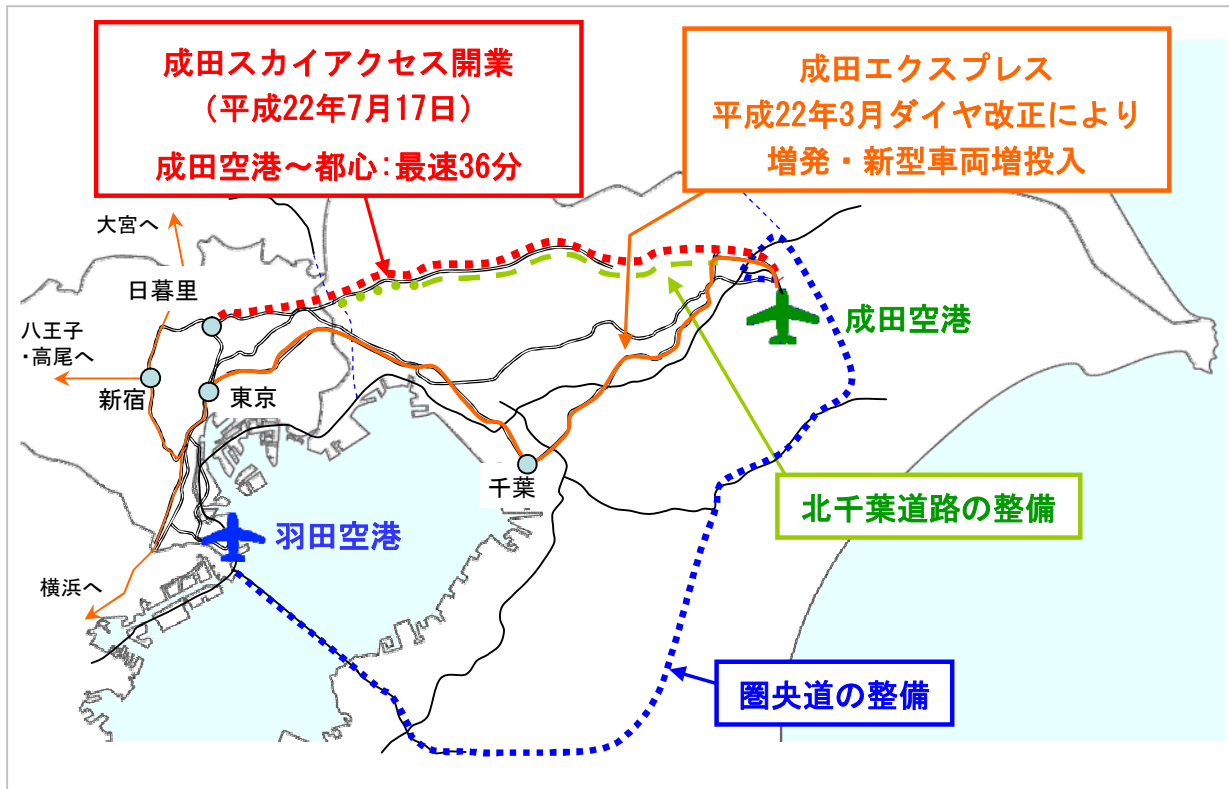
(提言の背景)

羽田空港への国際定期便就航が間近に迫っていることや、昨年10月の前原国土交通大臣の「羽田空港の24時間国際拠点空港化」発言も一つのきっかけとなり、成田と比べた羽田の利便性の高さが必要以上に誇張されている傾向がある。

しかし、成田空港アクセスの現状をみると、空港アクセス高速道路網の整備に加え、豊富な高速バスネットワークが張り巡らされている。また、鉄道アクセスについては、空港アクセス専用列車として、成田エクスプレスの新型車両の導入や増発、本年7月の成田スカイアクセスの開通により、快適性、速達性や運行頻度が向上し、世界の主要空港と比べても遜色ないレベルにまで利便性は高まる。

このような成田空港がパワーアップする機会をPRの絶好の契機と捉えて、成田が近く便利になったというイメージを積極的に発信し、空港の旅客利便性を世間に訴えるべく、対外的なPRを官民あげて戦略的・積極的に行うことが求められる。

空港アクセスの大幅な改善



鉄道アクセス

- ・日暮里～成田空港間 36分(京成スカイライナー)
(※成田スカイアクセス開業による短縮)
- ・東京～成田空港間 50分(成田エクスプレス)

高速バスアクセス

- ・東京、神奈川、埼玉、茨城等の関東近県や仙台・大阪・京都等の現在約50路線ものネットワーク網が張り巡らされています。
- ・羽田空港とも70分程度で結ばれています。

(参考)世界の主要空港と都心間の鉄道アクセス所要時間

フランス	: シャルル・ド・ゴール	29分
イタリア	: ローマ	30分
アメリカ	: シカゴ・オヘア	45分
韓国	: ソウル・金浦	45分
中国	: 北京	50分

提言2

成田空港の豊富な国際ネットワークを全国にも波及させるため、国内線の充実も検討し、際内乗り継ぎ利便の一層の向上を図るべきである。

- 現在成田空港の国内線は、8都市に就航しており、これらの周知・利用促進を図るためのPRを実施すべきである。
- 例えば、本年秋に千葉県を会場に開催される国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の開催に合わせ、選手団の国内線利用の促進やふるさと応援ツアーの企画等を検討すべきである。
- また、未就航都市への展開や多頻度化といった国内フィーダー路線の充実により、地方からの乗り継ぎ需要に対応すべきである。
- なお、旅客の乗り継ぎ利便に適したダイヤ編成のためにも、利便性の高い時間帯の発着枠（時間値）を増加させることが重要である。

（提言の背景）

オープンスカイの進展により、現在地方空港から直接仁川空港経由で海外に渡航している実態があり、特に仁川と地方を結ぶネットワークが年々増加している事実は軽視できない。

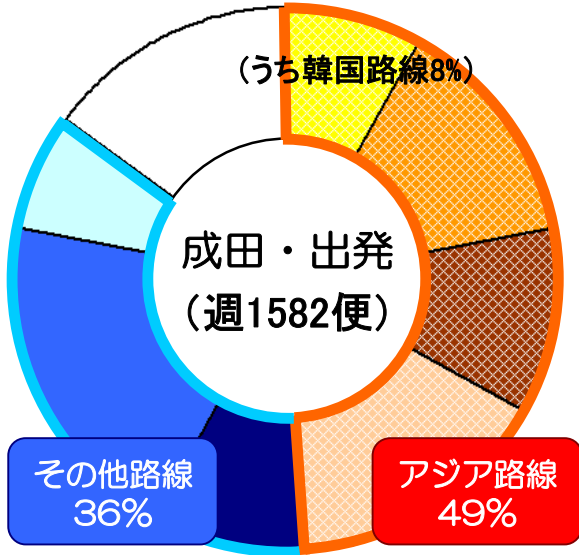
これまで成田空港は首都圏の旺盛な国際線需要に対応する役割を担ってきたが、国内ネットワークは必ずしも十分とは言えず、こうした観点からも、成田空港の実際乗り継ぎ機能の強化を図ることも喫緊の課題の一つであるといえる。

現在でも、成田空港には国内路線が8都市へ張り巡らされているが、全国的に認知されているとは言い難く、まずはこの事実を広く知らしめることが重要であり、それに加えて成田空港の国際線と全国を繋ぐ国内フィーダー路線の充実（既存路線の多頻度化や未就航都市への展開）を図ることが求められる。その際、小型機用の施設整備や公租公課等の優遇措置など受入れ環境の改善も検討すべきとの意見もあった。

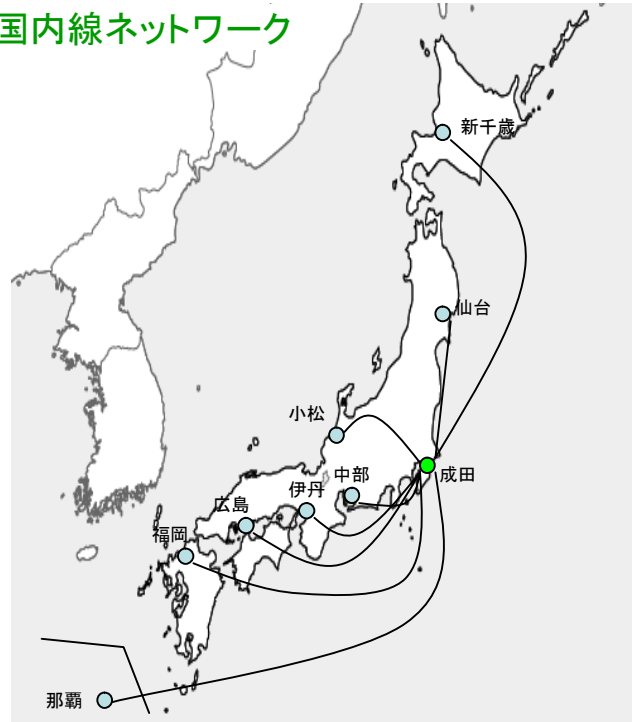
なお、国内線の充実のためには、国際路線を維持・強化しつつ、国内フィーダー路線を就航させ、成田の全世界にバランスの良い豊富な国際線ネットワークの効果を地方に波及させるという視点が大事である。

成田空港の豊富な航空ネットワーク

● 国際線ネットワーク



● 国内線ネットワーク

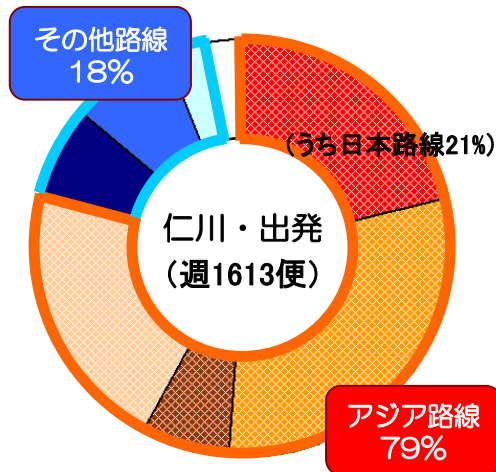


国内線発着回数 1.3万回
国内線旅客数 123万人
(2007年度実績)

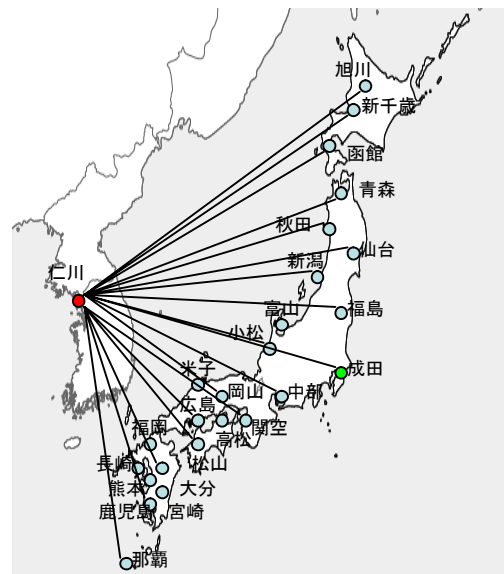
- 日本
- 韓国
- 中国本土
- 台湾・香港
- アジア
- 欧州・中東
- 北米
- オセアニア
- その他
- 国内

(参考) 仁川空港の航空ネットワーク

● 国際線ネットワーク



● 仁川空港と日本の空港とのネットワーク



地方空港から仁川への乗継 17万人
地方空港からの国際旅客総数 194万人
(2007年実績)

[Airport Date Intelligence/Sabreの1/11-17のスケジュールデータより]

[第1回成田空港緊急戦略プロジェクトNAA資料等より]

提言3

成田空港は、我が国の表玄関であり、ハード・ソフト両面から、利用者に対する「おもてなし」機能の向上を図るべきである。

- C I Qについては入国審査での待ち時間短縮のためにも、自動化ゲートの増設といった施設面の改善や人員増員についてより積極的に展開すべきである。
- 日暮里から成田空港まで最短36分で繋がれることを契機として、エレベーターのスピードアップ等施設面の改良を含めた取り組みなどにより更なる移動のスムーズ化に向けた検討を行い、旅客の利便向上を図るべきである。
- 外国人が気軽に公共交通機関に乗り降りができるよう案内サービスを充実するとともに、電子マネーによるICカード対応を拡充する等の環境整備を促進すべきである。
- 旅行時の手荷物の負担軽減として、例えば主要鉄道駅やバスターミナルでのチェックインや羽田・成田乗継ぎ客のスルーチェックインを可能にする等といった仕組みを検討すべきである。

(提言の背景)

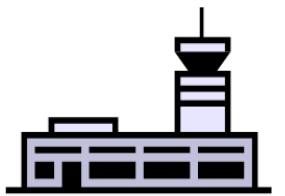
現在政府が、官民一体となり、2013年までに訪日外国人旅客数を1,500万人、将来的には3,000万人にするという目標を掲げ外客誘致を図っている中で、多くの訪日外国人が最初に訪れる空港は、日本の第一印象を決めることにもなり、その責務は重大である。海外の観光都市ではリピーター獲得のために体験を重視した取り組みをしており、空港だけでなく、広域的に旅行の楽しさや快適性を体験してもらうことが重要である。

成田空港においては、案内標識の改善やインラインスクリーニング方式の導入による手荷物検査の迅速化等が実施されており、このような取り組みの成果もあって、国際空港評議会(ACI)による2009年の空港の規模別サービスレベルランキングにおいて世界第3位となっている。

今後、CS(お客様満足)向上に加え、旅行体験の向上を目指すためには、快適性と安全性を高いレベルで実現することが重要であり、施設面の改良とともに、セキュリティレベルを確保しつつ、違和感を生じさせない工夫を施す等おもてなしの気持ちで旅客を迎え入れる取り組みの促進が求められる。

ハード・ソフト両面からおもてなし機能を向上

到着客の場合



成田空港に到着



CIQの施設面・人員面の改善



自動化ゲート

通過(所要)時間の短縮



空港内移動の
スムーズ化に向けた検討



外国人向けICカードの
普及促進
(カウンターでの販売等)



次の目的地までの
移動抵抗をより少なく!!

出発客の場合



主要鉄道・バス駅での
手荷物の預け渡し
・プレチェックイン



移動時の負担軽減
実現!

最終日ギリギリまで、
買い物・観光・ビジネスが
手軽に!!



インラインスクリーニングシステムの導入



諸外国へ出発

提言4

成田空港を活用した海外からのインバウンド観光の促進を図ることにより、県内観光の活性化を図るべきである。

- 海外からの県内観光にヒトを呼び込むために、観光の商談会に積極的に参加し、千葉の観光地・魅力を売り込むべきである。
- 成田空港と幕張地区等の連携を強化し、積極的に国際会議の誘致を図るべきである。
- 単なる乗り継ぎ地、発着地ではない、「もう1泊したくなる」「立ち寄りたくなる」観光素材を開発し、地域にヒトを呼び込み、地域活性化を図るべきである。
- 県内観光をPRする手法としては、例えば県内の観光パンフレットを作成し、飛行機の座席に備え付け、4ヶ国語でのPRをすることも考えられる。

(提言の背景)

観光は、地域経済の活性化、雇用機会の増大等国民経済のあらゆる領域にわたりその発展に寄与する裾野の広い産業である。特に海外からのインバウンド観光の増加は、国際相互理解の増進だけでなく、国内における旅行消費の拡大や観光関連産業の促進や雇用の拡大による地域の活性化といった大きな効果をもたらすものである。

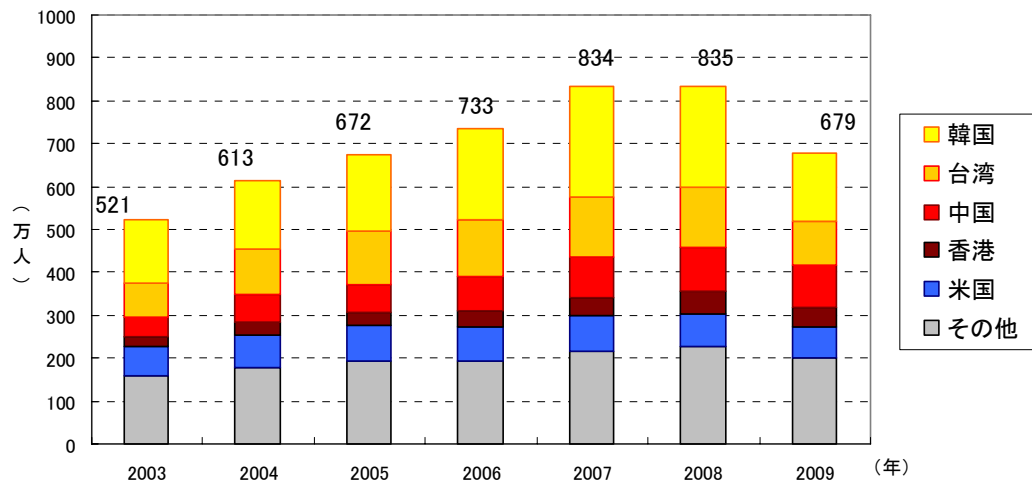
成田空港を擁する千葉県の観光は、外客誘致を図るうえでも、優位性があるといえるが、空港を利用する訪日外国人の訪問先はそのほとんどが都内であり、県内観光の活性化に必ずしも活かしかれておらず、今後空港アクセスが改善されると、県内が素通りされるのに拍車がかかる恐れも否定できない。また、日本における国際会議開催件数については、県内都市の中で、2004年に千葉市が第8位にランキングされていたが、それ以降県内の都市はベスト10圏外となっていることもある。

そのため、優先すべき施策として、多数の外国人が訪れる成田空港のポテンシャルを最大限活かすため、これを国際観光の戦略拠点と位置付け、県内観光や空港周辺の魅力を売り込む方策を検討することが求められる。なお、外国人に県内観光をPRするためには、渡航前の事前の情報提供や訪日外国人による口コミが重要であるとの意見があった。

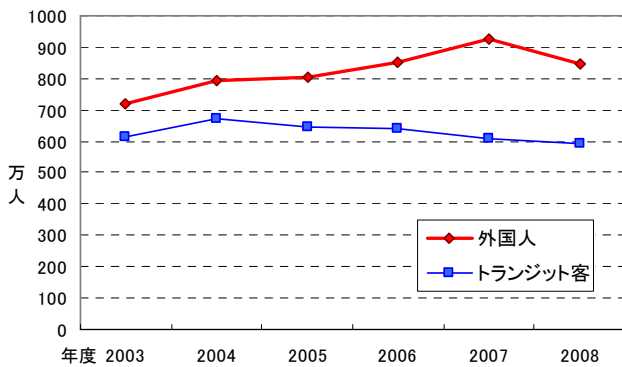
訪日外国人等の動向

●訪日外国人訪問客の推移

[出展: 日本政府観光局(JNTO)調査]

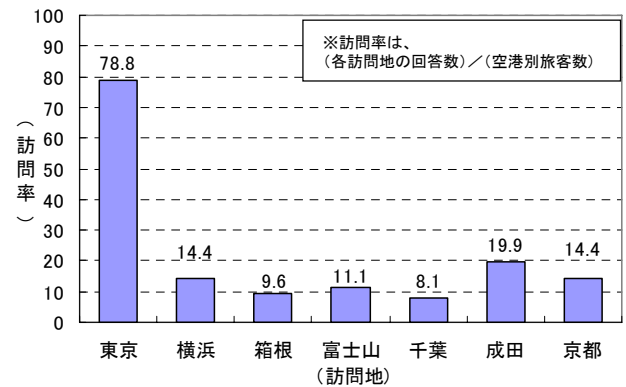


◇成田空港国際線旅客数(外国人・トランジット客)の推移 (往復ベース)



◇成田空港利用外国人の国内訪問地別訪問率

[出展: 平成19年度国際旅客動態調査]



●日本国内の都市別国際会議開催件数

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
1	東京(23区) 353	東京(23区) 428	東京(23区) 357	東京(23区) 460	東京(23区) 440
2	京都 149	京都 170	京都 137	京都 154	京都 183
3	神戸 84	大阪 94	名古屋 108	福岡 126	横浜 157
4	名古屋 83	名古屋 89	横浜 105	大阪 111	福岡 151
5	大阪 80	横浜 82	福岡 97	名古屋 109	名古屋 109
6	福岡 77	福岡 76	大阪 89	横浜 103	神戸 89
7	つくば地区 72	札幌 65	つくば地区 60	神戸 76	つくば地区 82
8	札幌 46	千葉 59	神戸 58	つくば地区 64	大阪 76
9	横浜 41	千里地区 58	札幌 54	千里地区 49	仙台 51
10	千里地区 39	つくば地区 56	仙台 42	札幌 48	札幌 44

[出展: 日本政府観光局(JNTO)「コンベンション統計(2007年)」]

委員名簿

○県経済界

千葉県経済協議会 会長	市野 紀生
千葉県経営者協会 会長	大塚 弘
千葉県経済同友会 代表幹事	佐久間 英利
千葉県商工会議所連合会 会長	千葉 滋胤
千葉県商工会連合会 会長	末吉 一夫
千葉県中小企業団体中央会 会長	坂戸 誠一

○交通事業者

成田国際空港株式会社 取締役常務執行役員	高橋 かしわ
株式会社日本航空 執行役員	来栖 茂実
全日本空輸株式会社 上席執行役員	岡田 晃
アイベックスエアラインズ株式会社 代表取締役社長	服部 浩行
東日本旅客鉄道株式会社 執行役員千葉支社長	梅原 康義
京成電鉄株式会社 常務取締役	神子田 健博
京成バス株式会社 代表取締役社長	小田 征一
東京空港交通株式会社 代表取締役社長	鈴木 光男

○観光関連事業者

社団法人日本旅行業協会 関東支部 支部長	野口 英明
----------------------	-------

○空港周辺市町

成田市長	小泉 一成
多古町長	菅澤 英毅
芝山町長	相川 勝重

○千葉県

知事	森田 健作
----	-------